

科学万博出展諸外国職員による公共集合住宅の評価と住み方

荒川 千恵子*
(1985年9月28日受理)

Evaluation of Public Mass Housing and Living Style: as reflected by foreign staff during there employment at Thukuba Science Expo

Chieko ARAKAWA*
(Received September 28, 1985)

はじめに

昭和60年3月から9月にかけて「国際科学技術博覧会つくば'85」が開催されるにあたり、出展諸外国の職員用宿舎として、公団住宅および公務員住宅が提供された。その住宅の1つに、科学博のテーマ「人間、居住、環境と科学技術」にふさわしい事業として建設された都市型居住の先進的モデル住宅、さくら団地も含まれている。

本稿は、これら公共住宅を利用した諸外国職員が、その住宅および屋外空間をどのように評価したか、自国の住宅および住み方と比較してどう思ったかを明らかにし、わが国の住宅の国際的な評価の一端を得て、今後のあるべき水準を検討するための資料を得ることを目的としている。

またわが国の住宅建設においては欧米先進国を目標とし、とくに公共集合住宅では、イギリス、アメリカの集合住宅に多くの示唆を得ているが、一方、伝統的な住様式、住宅様式に対する見直し、続き間型住宅の研究や住宅の地方性といった視点から捉え直されてきている。このような問題意識からも、本稿では、文化の異なる諸外国職員が、日本の伝統的な住様式について、どのように理解し、評価しているかについての知見を得ることもねらいとしている。

明らかにすべき内容は、1) 屋外空間、住棟のつくりや雰囲気について、2) 住戸内の設計、デザイン、設備について、3) わが国の伝統的な住様式および住宅様式についての評価と意見であり、とくに1)、2)においては、今後のモデル住宅として建設されたさくら団地を中心に検討する。

* 茨城大学教育学部住居学研究室

調 査 の 概 要

1. 調査対象

科学博出展のために職員宿舎として住宅を借用した国は31ヶ国、借用住戸数は338戸（昭和60年4月現在）である。家族同伴は少なく、ほとんどが単身赴任で、1住戸に2人以上が共同生活をしており、低開発国等では、1住戸7～8人という過密居住もみられた。科学博開催期間中の職員の出入国は絶えず行なわれ、実際の利用人数は、正確なところは科学博協会本部においても不明である。また宿舎利用職員の中には、現地採用（以前から日本に居住している者）や日本人も含まれており、すべての住戸に調査対象として該当する職員が利用しているとは限らない状況であった。したがって、調査対象の母集団の特定は不可能であり、そのような中で本調査の調査対象は、利用住戸数の多い国とし、その他先進国、近隣国の要素を加味して、13ヶ国、230戸を選定し（表1，1次配布住戸数欄参照），1住戸当り2人までを対象とした。ただし、調査票回収の時点において、回収率が著しく悪かったので、急拠、選定外の国にも配布したため、結果的には、17ヶ国を対象国とした。

2. 調査方法

調査は、質問紙による配票調査と、調査票回答者のうち承諾を得た者を対象とするヒヤリング調査を行なった。質問紙は英文で作成し、ヒヤリングは英語および日本語で行なった。

調査表の配布および回収は、当初は、各対象団地の管理業務を請け負っている(株)団地サービスに依頼していたが、前述のとおり回収が著しく不良だったため、直接現地回収におもむいたほか、科学博協会本部の外事部を通して、各国パビリオンの館長等組織を通じて新たに調査票を配布し、回収を行なった。回収は表1に示すとおりで、回収票総数は88票である。

ヒヤリング調査は、質問紙の内容の範囲内で、自由記入欄の質問項目等を主として、その回答のニュアンスを正確に受けとめるという主旨の下に、ほぼ30分から1時間の間で、17人を対象に行なった。

調査期間は、配票調査は昭和60年7月下旬から8月中旬、ヒヤリング調査は同年8月中旬に行なった。

3. 対象団地の概要

諸外国職員の宿舎として提供された団地は、以下に示す4団地である。

団地名	所在地	住棟構成	室構成	住戸床面積	借用戸数
さくら	新治郡竹園	低・中層、囲み型配置	ワンルーム～2LDK	35.1～78.2㎡	141戸
戸頭	取手市戸頭	中・高層、平行配置	3K, 3DK	43.4, 56.5	107
千現	新治郡桜村	高層1棟	3DK, 3LDK	58.6, 65.5	43
松代	筑波郡谷田部	2階建独立住宅	4L・DK	116.7	31

各対象団地の特徴を概略記述すると、さくら団地は住宅・都市整備公団が21世紀にむけたモデル住宅として、「多様な住要求に常に対応できる質の高い住宅、および安全で愛着のもてる居住環境の創出¹⁾」を目指して建設した団地で、多くの新しい試みが組み込まれている。具体的には、屋外空

間においては、3～5階建の混在によるスケール感、変化に富んだスカイラインの創出、遊歩道と住棟配置の工夫、屋上テラスやサンルームの設置とそれらによる住棟のデザイン化、電線の地下埋設、CATV、真空集塵システム等の採用、住棟・住戸では、内箱方式²⁾

による間取り変更可能や浴室乾燥設備、ホームセキュリティシステム等高度な各種設備がほどこされていることである。

これに対し同じく公団供給の戸頭団地は、昭和50年初期の建設で、現在は採用されていない標準設計³⁾による古いタイプによる住宅であり、室数の割に面積がきりつめられており、給湯設備、シャワー等も設置されていない。

千現は、民賃制度⁴⁾により昭和59年に建設された住宅で、住棟入口にロビーを設けたり、住棟デザインに配慮があり、戸頭よりやや高級化しているマンションである。

松代団地は、昭和50年代半ばに建設された上級公務員用宿舎で、床面積が広く、間取りはダイニングルームをリビングルームより半階上げ、リッチな公的空間を形成している。

表1 調査対象および回収票数

	1次配布 住戸数	回収票数			
		計	さくら	戸頭	千現 松代
総数	230戸	88票	57	16	5 10
アメリカ	24	15	15		
カナダ	20	5	1		4
イギリス	6	3	3		
西独	17	1	1		
ベルギー	—	2	2		
フランス	9	1	1		
スイス	16	4	4		
イタリア	11	8	8		
スウェーデン	7	10	2		8
ソビエト	40	10	5	5	
豪州	21	11	9		2
インドネシア	19	11		11	
韓国	26	1	1		
イラン	14	1			1
タイ	—	1	1		
エジプト	—	1	1		
ブラジル	—	3	3		

4. 調査対象の属性

配票調査の対象者の属性は表2に示すとおり、年令は20代、30代の若い人が多数を占め、既婚、未婚はほぼ半々、性別では男性が $\frac{2}{3}$ 、自国での家族人数は、1人から4人家族まではほぼ均等に分布し、5人以上から少なくなっている。

自国での住まいの状況は、戸建住宅がやや多いがアパート住まいもかなりあり、若年世帯が多いためか100㎡未満の住宅が結構多い。居住地域は市街地が7割、郊外2割、田園地帯1割といった分布である。

自国での職業は、学生が最も多く3割、ついで公務員2割、研究者・技術者等専門的職業2割、ほか報道関係、会社員、秘書、通訳、芸能関係等である。科学博での職種は、コンパニオンが4割、政府代表・館長等幹部クラスが1.5割、企画、総務等の上級職員1割、芸能関係（ダンサー、ミュージシャン）1割、ほか報道関係、技術者、秘書、ウェイトレス等である。

ヒヤリングの対象者は、イギリスを除いて、主要国をばば含んだ11ヶ国で、科学博での職種は、館長クラス6、企画・報道関係5、コンパニオン4、ウェイトレス2人である。

表2 調査対象の属性

a. 年令						b. 家族人数					
	票数	20代	30	40～	N.A.	(実数)					
						1人	2	3	4	5～	N.A.
総数	88	42	24	17	5	13	15	11	13	15	21
北米	20	13	3	2	2	6	2	2	2	3	5
西欧	19	10	5	3		3	4	2	3	4	3
東欧	10	8		1	1	1	3	1	1	2	2
ソ連	10	1	3	6		1	3	2	2		2
豪州	11	7	1	1	2	2	2		2	2	3
その他	18	2	11	4			1	4	3	4	6

c. 住宅形式					d. 住宅規模						
	票数	戸建	アパート	その他	N.A.	～49㎡	50～	100～	150～	200～	N.A.
総数	88	48	34	2	4	3	28	12	5	17	23
北米	20	9	8	1	2		1	2	2	3	12
西欧	19	8	11				7	2	1	5	4
東欧	10	7	2		1	1	4	1		3	1
ソ連	10	1	9			2	7	1			
豪州	11	9		1	1			1	2	4	4
その他	18	14	4				9	5		2	2

英語圏外の諸外国職員にとっては、英文・英会話が必ずしも得意でないこともあり、調査に応じた対象者は、英語をこなせる学生や上級職、あるいは親日家タイプにかたよった傾向がみられた。とくにヒヤリングに応じた職種は、館長クラス、報道関係が多い。

5. 分析の方法

配票調査の結果については、まずさくら団地の評価を明確にするために、さくら団地とその他団地を分類集計し、つぎに自国の住宅状況の反映が考えられるので、国別集計を行なった。ただし票数が非常に少ない国もあり、イギリス、西独、ベルギー、フランス、イタリアは〈西欧〉として、1つにまとめ、タイ、韓国、イラン、エジプト、ブラジルは〈その他〉としてまとめた。なお、票数が少ないため団地別国別の集計が行なえなかったが、国別の集計のうち、カナダは千現住宅が主で（5票中4票）、スウェーデンは松代（10票中8票）、インドネシアは戸頭（全票）、ソビエトは戸頭とさくらが半々（6票、4票）で、その他の国はさくら団地がほとんどであり、国別集計は利用団地の違いも考慮し得るものである。

つぎに、配票調査の調査結果を考察するにあたり、質問紙に設定した関連項目の自由記入欄に記述された意見やヒヤリングによって聞きだした結果を併せて分析を深めることとし、記述にあたっては、自由記入欄の意見は「……」で、ヒヤリングによるものは『……』で表示した。

また、住様式等文化の違いが大きく関わる問題については、正確を期するために、アメリカ文化センターに長年勤務した後、米国に留学し、現在国連大学に勤務する沢良世氏に、本調査の結果の解釈を含めてヒヤリングを行ない、参考意見として記述した。

調査結果および考察

1. 屋外空間および住棟まわりのつくりや雰囲気について

来日中利用している住宅の、団地全体の雰囲気や植栽の仕方、住棟構成、住棟まわりについて、総合的にみてどう評価したかをみると、表3のとおりで100%に近い好評率である。

団地別でも同様であるが、とくにさくら団地は<大変良い>が6割を占め、その他団地の3割に対し、大巾に多く、大変好評である。

国別にみても、さくら団地利用の国は<大変良い>が<良い>を上廻っており、さくらと戸頭が約半々のソビエトの例をみると、さくら利用者は<大変良い>、戸頭利用者は<良い>に、多数が回答している。

さくら団地について具体的な項目別の評価をみると、表4のとおりである。

好評率8割以上の項目は、<広々とした感じ><樹木の量><遊歩道><住棟アプローチ><庭のつくり><平行配置><住棟の大きさ><住棟の色><住棟の仕上げ・外観><階段の昇りやすさ><駐車場の位置>と屋外空間や住棟の全般にわたっており、やや評価の落ちるのが、<共用入口のデザイン><玄関アプローチ>である。<集会室><ビデオホーン>も低いが、これは短期滞在のため利用しなかったり、あるのも知らないというためである。

ヒヤリングにおいても、屋外空間については大変評価が高く、『静かで良い、便利で快適な環境である。つくりはアーバンというのではなくシティであり、発展途上のシティとしては良い。建物の色もクリーム色やベージュ色は好きである。リビングからは木々が見えるし鳥もなくて素晴らしい』(カナダ)。

『緑も多く、住棟間も広く、良くできている』(フランス)。『日本の団地は大きくて、高いイメージがあったが、この団地のサイズは丁度良い』(スイス)等々が聞かれた。

元建築家であるスウェーデンの館長は『団

表3 団地総合評価—団地別・国別
(%, 国別は実数)

	票数	大変良い	良い	悪い	N.A.
総 数	88	47.7	51.1	1.1	
さくら団地	56	58.9	39.3	1.8	
その他団地	32	28.1	71.9		
アメリカ	15	10	5		
カナダ	5	2	3		
西欧	19	9	9	1	
スウェーデン	10	3	7		
ソビエト	10	6	4		
豪 州	11	9	2		
インドネシア	11		11		
そ の 他	7	3	4		

表4 団地・住棟廻りの項目別評価—さくら団地
(%)

項 目	良い	悪い	N.A.
1. 広々とした感じ	92.9	5.4	1.8
2. 高級感	73.2	17.9	8.9
3. 都会的雰囲気	66.1	30.4	3.6
4. 樹木の量	91.1	5.4	3.6
5. 遊歩道があること	87.5	7.1	5.4
6. 住棟アプローチ	80.4	14.3	5.4
7. 庭のつくり	85.7	7.1	7.1
8. 平行配置	87.5	5.4	7.1
9. 囲み型配置	66.1	25.0	8.9
10. 住棟の大きさ	87.5	8.9	3.6
11. 住棟の色	82.1	14.3	3.6
12. 住棟の仕上げ・外観	80.4	16.1	3.6
13. 住棟各部のデザイン	75.0	17.9	7.1
14. 共用入口のデザイン	50.0	35.7	14.3
15. 玄関アプローチ	57.1	33.9	7.1
16. 共用廊下の幅・つくり	76.8	17.9	5.4
17. 階段ののぼり易さ	87.5	10.7	1.8
18. 玄関廻り	75.0	16.1	8.9
19. 駐車場の位置	91.1	3.6	5.4
20. 夜間識別住棟表示	75.0	17.9	7.1
21. 電線の地下埋設	71.4	5.4	23.2
22. 真空集塵システム	71.4	12.5	16.1
23. 集会室	53.6	32.1	14.3
24. ビデオホーン	55.4	19.6	25.0

地はヒューマンサイズで、コンパクトで機能的である。緑もヒューマンな雰囲気があり量的には十分である。ただし、中央にあるコモンスペースはもっと活用し、コミュニケーションを持てるようにすべきである。とくに考えてもらいたいのは玄関アプローチ、入口まわりのづくりである。コンクリート打ちではラフすぎる。タイルなどで色をそえたり、植物を植込んだりしてはどうか、日本の伝統として、石を敷きつめたり植栽をほどこすデザイン技法があった筈』という適確な指適をしており、住棟入口や住戸入口の今後の充実が望まれる。

ある範囲の地域の数団地に対して1ヶ所に事務所をおく集中管理システムを目指して設けられたビデオホーンは、『不必要である、かけてもなかなか画像が現われない、電話で充分である』(スイス)と、設備は設けたけれど管理体制としてはまだ使いこなせていない様子が見えられた。

2. 住戸内の設計、デザイン、設備について

まず、住戸内の総合的な評価をみると表5のとおりである。総数では、好評率が8.5割とかなり高いが、団地総合評価に比べるとやや低く、とくに<大変良い>が団地評価においては5割であったのが、住戸評価では1.5割と低くなっている。団地別では、やはりさくら団地がその他団地より明らかに好評である。

住戸内の評価について、具体的に項目別に評価とその意見をみるとつぎのとおりである。

1) 住戸規模

利用している団地の住宅について、自国の住んでいる地域の住宅と比較しての規模評価をみると、表6、aに示すとおり、総数で<同じ位>が $\frac{1}{3}$ 、<狭い>4割、<大変狭い>が2割強で、住戸規模に関しての評価はかなり低く、とくにその他団地では<大変狭い>が $\frac{1}{3}$ を占めている。国別にみると、アメリカ、カナダ、西欧、ソビエトが自国より狭いと回答している比率が多く、スウェーデン、豪州は<同じ位>とほぼ半々、インドネシアは<同じ位>が多い。

つぎに各室の規模評価をみると、さくら団地は当初から外人用宿舎として配慮し、リビング・ダイニングルームを20~30㎡とリッチに設計してあるため、それについては8割強が<良い>と回答しているが、ベッドルームの評価は6割と低い。

間取り一般を聞いた自由記入欄においても、「狭すぎる」「子供が小さいうちはよいが、大きくなったら駄目」「ベッドルームは狭いが、ほかは良い」「とても狭いが、現代化という点ではよい」「ブラジルの一部屋よりも狭い」と、狭さに対する意見が非常に多い。

ヒヤリングでも『リビング・ダイニングルームは良いがベッドルームは狭すぎる、1人分として8畳は必要』(スウェーデン)。『家族と住むなら狭すぎる、戸頭団地は2人まで、子供が遊ぶ場所がなくてかわいそう』(インドネシア)といった

表5 住戸内総合評価-団地別・国別

	票数	(%, 国別は実数)				N.A.
		大変良い	良い	悪い	大変悪い	
総数	88	15.9	71.6	10.2		2.3
さくら団地	56	17.9	71.4	7.1		3.6
その他団地	32	12.5	71.9	15.6		
アメリカ	15	2	12			1
カナダ	5	1	3	1		
西欧	19	2	15	2		
スウェーデン	10	1	5	3		1
ソビエト	10	3	7			
豪州	11	2	8	1		
インドネシア	11	1	9	1		
その他	7	2	4	1		

表6 住戸内項目別評価—団地別・国別

	票数	a. 住宅の広さ—自国との比較					b. 間取り				
		より広い	同じ位	狭い	大変狭い	N.A.	大変良い	良い	悪い	大変悪い	N.A.
総数	88	1.1	34.1	39.8	23.9	1.1	10.2	60.2	14.8	1.1	13.6
さくら団地	56	1.8	25.0	51.8	19.6	1.8	14.3	50.0	17.9		17.9
その他団地	32		50.0	18.8	31.3		3.1	78.1	9.4	3.1	6.3
アメリカ	15	1	3	9	2		3	8	2		2
カナダ	5		1	2	2		1	4			
西欧	19		4	10	4	1	2	7	5		5
スウェーデン	10		4	2	4		1	4	2	1	2
ソビエト	10		3	2	5			8	1		1
豪州	11		5	5	1		1	9			1
インドネシア	11		9	1	1			9	1		1
その他	7		1	4	2		1	4	2		

	票数	c. 収納戸棚—リビング			d. 室内仕上げ			e. 照明				f. 設備水準				
		多い	少ない	不明	多い	少ない	不明	大変良い	良い	悪い	N.A.	大変高い	高い	低い	大変低い	N.A.
総数	88	14.8	60.2	25.0	21.6	58.0	20.5	9.1	75.0	13.6	2.3	9.1	71.6	12.5	3.4	3.4
さくら団地	56	19.6	66.1	14.3	19.6	67.9	12.5	10.7	73.2	12.5	3.6	12.5	73.2	8.9		5.4
その他団地	32	6.3	50.0	43.8	25.0	40.6	34.4	6.3	78.1	15.6		3.1	68.8	18.8	9.4	
アメリカ	15	1	12	2	2	11	2	3	9	3		4	10	1		
カナダ	5		5		1	4			5			1	2	2		
西欧	19	6	11	2	4	13	2									
スウェーデン	10	1	6	3	4	5	1	2	2	5	1		6	1	3	
ソビエト	10	4	4	2	7	3		2	8				8	2		
豪州	11	10		1	1	10			10		1		9			1
インドネシア	11		2	9		2	9		11				11			
その他	7	1	3	3		3	4									

	票数	e. 照明					f. 設備水準				
		大変良い	良い	悪い	大変悪い	N.A.	大変高い	高い	低い	大変低い	N.A.
総数	88	4.5	45.5	23.9	20.5	5.7	9.1	71.6	12.5	3.4	3.4
さくら団地	56	5.4	33.9	35.7	21.4	3.6	12.5	73.2	8.9		5.4
その他団地	32	3.1	65.6	3.1	18.8	9.4	3.1	68.8	18.8	9.4	
アメリカ	15	2	5	5	3		4	10	1		
カナダ	5			1	2	2	1	2	2		
西欧	19										
スウェーデン	10	1	1	2	5	1		6	1	3	
ソビエト	10		10					8	2		
豪州	11		6	4		1	1	9			1
インドネシア	11		11					11			
その他	7		5	1							

意見がみられた。さくら団地を利用した豪州の館長は、約10㎡のベッドルームを6㎡そこそことみていたが、造り付け収納戸棚がなく、家具に室面積が占有されているためと思われる。

その他、浴室やバスタブの広さ、台所作業台の高さについての不評率が高く、外人の背の高さや入浴形式の違いが反映している。また、その他団地で玄関ホールや浴室、洗面所等の水廻り部分の不評率が高く、これは、一時代前の古いタイプの戸頭、松代での不評である。

ii) 間取り

間取りについては、表6、bのとおり、総数で〈大変良い〉が1割、〈良い〉が6割と、まずは好評である。自由記入やヒヤリングでの意見でも、リビングやダイニングルーム、個室といった居室部分の位置関係についてはおおむね好評である。

問題点としての指摘には、ドアの位置に関するものが多く、個室やキッチンのようなプライベートな空間は玄関から離すべきである、見えないようにといった意見である。また手狭な空間での開きドアを、スライディングドアに、ポケットドアにといった意見も妥当な指摘であろう。

相反するさまざまな意見がみられたのは、浴室、洗面所、便所等水廻りに関する問題で、それぞれの習慣の違いがうかがわれたが、まとまった意見としては、水廻り部分と廊下部分との間にドアをつけること、脱衣室や洗濯スペースを独立した空間にすることがあげられる。

iii) 収納スペース

造り付けの収納スペースについて、自国と比較しての多少をみると、表6、cのとおりである。この表の不明欄には、〈同じ位〉も含めている。

総数で、6割が〈少ない〉と回答しており、洗面所やキッチンについても同様の比率を示している。アメリカ、カナダ、豪州で〈少ない〉と回答している比率が高く、ついで西欧、スウェーデンとなり、ソビエトは半数となる。

ヒヤリングでも収納スペースの不足意見が多く、『収納スペースがたりない、ハンガーをかける収納スペースが少ない』（アメリカ）と、日本人は洋服をどうやって収納しているのかしきりに不思議がっていた。また、豪州で『ベッドルームには造り付けのワードローブがあるのが普通である。ベッドカバー、リネンなどを収納するスペースもある。ワードローブの下部に1～2アンペアのヒーターがあり、かびのはえやすい雨期にはドライヤーの役目をしている』と云っていたのは、わが国の集合住宅にも参考に値する意見であろう。

iv) 室内仕上げ

室内の床、壁、天井、窓、建具等の仕上げについては、表6、dのとおり、総数で8.5割の好評率である。団地別では、ややさくら団地が好評であるが大差はない。

その評価理由をみると、好評回答のうち、〈手入れがしやすい〉と答えているのが6割、〈材質が良い〉5割、〈センスが良い〉3割などが、主な理由である。

ヒヤリングでも仕上げに関する意見は少なく、1～2の意見として、松代団地利用者の『（和風壁のため）壁の砂がおちる』（スウェーデン）、『キッチンのステンレスは傷つきやすい。自国では安アパートだけに使用している』（アメリカ）と、高級システムキッチンに用いられている高圧メラミン化粧合板等のワークトップに比較された意見があった。

v) 照明

照明に関しては、当初よりわが国の質の低さの指摘が予想されていたが、今回の調査結果をみて

も歴然としており、表6, e のとおり、先進国の利用者が多いさくら団地で、不評率は半数をこえている。その他団地で好評率が7割と高いのは、多数票のインドネシアが<良い>と回答しているためであり、その他ソビエト、豪州の評価もよい。

好評理由として、<へやの隅々まで明るい><明るさが均質である><暖かい感じ>をあげており、とくにインドネシアは明るいことを評価している。

これに対し不評理由としては、<照明による室内の演出が出来ない><明るさを変えられない><冷たい感じ>が多く、単に明るさを確保するだけでは不十分であり、照明デザインとしての考慮が欠除していることを指摘している。その国々は、アメリカ、カナダ、西欧、スウェーデンである。

ヒヤリングでもこれらの国から、『雰囲気がない』『光が強すぎて目に悪い、落ち着かない』『天井から部屋全体を照らす方法は、目が痛くなる、まるでオフィスのようである』といった意見が多くでている。

主な光源の種類は、インドネシアは蛍光灯、ソビエトはそれと白熱灯が半々、その他の国はほとんど白熱灯を使っており、蛍光灯は台所、洗面所等の水廻り部分に限られている。

『スイスでは白熱灯を複数使う。赤や青、オレンジ、緑など色々な色の白熱灯を使うこともある。蛍光灯はとても明るくて、バスルームやキッチンに使うにはよいが、リビングルームでは光が強すぎ、ムードが出ない』

『蛍光灯は、色が事務所のようである、台所のような作業をする所ならかまわないが。経済性から日本人は好んでいるようだけれど、省エネを考えるのなら、白熱灯で点灯時間をコントロールする方がよいのではないか』(フランス)等の意見がみられ、照明に関しては、今後のグレードアップが強く望まれる。

vi) 設 備

住戸内設備については、さくら団地はわが国でも先進的な水準を有するが、その他の団地は普通あるいは一時代前の低い水準にある。

これに対する水準評価は表6, f のとおりで、さくら団地では8.5割が、その高さを評価しているが、その他団地は7割である。その他団地のうち、自国の設備水準が高くはないインドネシアを除くと、その評価は5割になる。

つぎに、さくら団地に設置された各種設備の評価をみると表7のとおりである。なお、表7における票数は無効票を除いた44票による結果である。

9割近くの好評率を示しているのは、洗面所やキッチンの<シングルレバー>で、その他大多数の設備が7~8割の好評率を

表7 住戸内各種設備の評価—さくら団地

項 目	(%)		
	良い	悪い	N.A.
1. 浴室の乾燥設備	77.3	15.9	6.8
2. 浴室のサーモ付カラシ	75.9	15.9	4.5
3. 浴室の自動定量水設備	77.3	13.6	9.1
4. 洗面所のシングルレバー	88.6	9.1	2.3
5. 洗面台のボールの大きさ	63.6	31.8	4.5
6. 便器の洗浄・乾燥機能	75.0	18.2	6.8
7. 便座暖房設備	72.7	18.2	9.1
8. キッチンのシングルレバー	86.4	11.4	2.3
9. ホームテレホン	75.0	15.9	9.1
10. 火災表示	81.8	6.8	11.4
11. ガスもれ表示	81.8	6.8	11.4
12. 非常警報	77.3	6.8	15.9
13. トイレコール	59.1	15.9	25.0
14. 上記9~13のセキュリティシステム	72.7	9.1	18.2
15. 給湯用リモコンBox	70.5	20.5	9.1
16. 巾木コンセント	79.5	9.1	11.4
17. ソーラー	45.5	15.9	38.6
18. CATV	52.3	11.4	36.4
19. 調理台の広さ	43.2	45.5	11.4

得ている。評価のおちる項目をみると、〈洗面台のボール〉が、奥行き方向がやや浅く、洗にくいことがあげられ、〈トイレコール〉は必要性を認めない場合がみられた。〈ソーラー〉や〈CATV〉は短期滞在のため、評価以前の問題があり、N. A. が4割近くを占めている。〈調理台の広さ〉は、最も不評率が高く、前述のキッチンの収納スペースの不足やその他シンクが1つしかない、コンセントの数が少ない等、台所設備の評価は低い。

全般に、各種設備の評価そのものは高いが、自由記入やヒヤリングで聞かれた

意見では、設備水準の高さは認めるが、いささか設備過剰であるという指摘が多い。

「ほとんどの設備は良いが、コストがかかるので必要ない」「高度な技術を用いたトイレは不必要である。同じ費用を出すなら、造り付け洋服ダンスなど、もっと他にもものにお金をかける」などである。また『ホームセキュリティシステムは、アメリカでは必要かもしれないが日本では必要ないのではないか』(カナダ)、『日本人は安全性の高い生活を望んでいるのが印象的である』(ブラジル)といった意見や、『トイレや浴室の設備は複雑すぎる、セキュリティシステムは面白いだけ、ハイコストだし不必要である、そんなに広くないのに3つもホームテレホンがある。1つでよい。すべてに設備がぜいたくすぎる』(豪州)、『浴室乾燥室はぜいたくである。サーモ付カランも使っていない、自分で調節している。便器洗浄・乾燥設備など不必要、セキュリティシステムもぜいたくである。科学博会場よりも設備が科学博的で、まるでゲームセンターのようである』(スイス)、『セキュリティシステムやその他のシステムが多すぎる。あっちにもこっちにもあって滑稽である、生活に密着していない』(スイス)といったきびしい意見もある。その他、セキュリティシステムのパネルがリビングルームの入口にあって、通るたびにひっかける、リビングの雰囲気をごわすという尤もな意見がみられた。

このような設備過剰が指摘される一方、設備の古い団地利用者が『自国ではシングルレバーやセントラルヒーティングはほとんど普及している、日本の設備水準は自国より低い』(スウェーデン)と、基本的な設備の不足を指摘する意見もみられた。

以上、本稿でとりあげた住戸内の諸評価と前項の団地評価をあわせて、住宅や団地についての最終的な総合評価をみたのが表8である。団地の評価は非常に高かったが、住戸内の評価の低さの影響を受けて、住宅・団地の総合評価は住戸内評価に近似し、好評率は総数で8割となっており、さくら団地はその他団地よりも好評である。

3. 住様式について

わが国の伝統的な住様式、住宅様式については、生活の欧米化が進む中で、ややともすると否定的に捉えられているが、諸外国ではそれをどのように認識し、評価しているであろうか、ここでは

表8 住宅・団地総合評価—団地別・国別

(%, 国別は実数)

	票数	大変高い	高い	低い	大変低い	N.A.
総数	88	15.9	63.6	11.4	2.3	6.8
さくら団地	56	17.9	62.5	12.5		7.1
その他団地	32	12.5	65.6	9.4	6.3	6.3
アメリカ	15	5	9	1		
カナダ	5	1	1	1	1	1
西欧	19	1	14	4		
スウェーデン	10	1	5	2	1	1
ソビエト	10	1	9			
豪州	11	4	3			4
インドネシア	11		11			
その他	7	1	4	2		

住戸内における上下足の問題、起居様式と畳、入浴形式についてまとめた。

i) 住戸内では靴を脱ぐのか、あるいは履いたままではあるのかは、一つには住戸内の床材の仕上げとの関連でもあるが、まず、住戸内での上下足の様子をみると、表9、aのとおりである。自国では靴を履いたままの生活をしているのが半数をこえているが、意外に脱いでいるのも多く、とくにスウェーデンは脱靴が多い。来日中も、畳のへやにカーペットを敷いて靴を履いたままというのもみられたが、それは少数派である。

つぎに、わが国の靴を脱ぐ住み方についての評価をみると、表9、bのとおり<良い>というのが $\frac{2}{3}$ を占めており、国別ではインドネシアを除くと、各国<良い>の方が多い。<どちらとも云えない>と回答したものの理由には、「私たちには理解できない」「誰もが好むものではない」「無駄な習慣にすぎない」「きれいにしておけるので良い習慣であるが、面倒である」等、習慣だからというのが主であるが、一方<良い>と回答したものの理由には、「足がリラックスする」「足の通気性がよくなる」「快適である」「へやをきれいにしておける」「頻繁に掃除をしないですむ」「床を汚さないし、傷つけない」「音をたてない」といった合理性をあげ、「私が高く評価する古い伝統の一つである」(スウェーデン)と述べているものもある。

ヒヤリングにおいても、上述の健康や衛生的であるといった評価に加えて、『くつろげる』『自由な感じ』『解放感がある』『靴を脱いであがるのは、友好的に感じる、スウェーデンの北は靴を脱ぐのが一般的である』といった精神的な側面からの評価もみられる。また『自国でも、父は古い人だから靴のままだが、最近では家の中はスリッパの人が多い』(カナダ)。『古い家やコンクリート、木の床の場合は、靴のままだが、カーペットを敷いているところや特別のへや、リビングルームなどではスリッパを履く』(西独)。『雨の日など靴が汚れた時や厚いカーペットの時は靴を脱ぐ。訪問した時、靴が汚ないので脱ぎますと断り、気にしないでどうぞお上り下さいと云われたら、そのまま上る』(スイス)、『雪だけの時期はぬかるみで汚なくなるので、スリッパのようなものを履く、日本の習慣は解放感がある上、衛生的である。自国で応用し、家族にも習慣づけており、訪問者にも脱がせている』(ソビエト)と、わが国の靴を脱ぐ習慣は高く評価されている。

沢氏(調査の概要、5参照)によれば、1960年代にアメリカからまき起った学園紛争やヒッピーの発生、解放運動等の一連の流れが国際的に広まった中で、住み方の面においても、靴を脱ぐこと

表9 住戸内の上下足について—国別

	票数	a. 自国と来日中の上下足					b. 上足評価 (実数)			
		どちらでも 下	自国 足	どちらでも 上	自国 足	日本 下足	良い	どちらとも いえない	悪い	N.A.
総数	88	15	34	34	1	4	58	27	1	2
アメリカ	15	3	7	5			8	5	1	1
カナダ	5	1	2	2			4	1		
西欧	19	3	6	10			14	5		
スウェーデン	10	1	1	6	1	1	6	4		
ソビエト	10	4		5		1	8	2		
豪州	11	1	6	2		2	8	3		
インドネシア	11	1	9	1			5	6		
その他	7	1	3	3			5	1		1

の自由な感触，それはさらに古いしきたりからの解放といった捉え方に発展し，若い人達の間から靴を脱ぐのが増えてきているとのことである。それはまたさらに，次に述べる起居様式の面にも及び，イスに座る様式に対し，床やベッドの上にベタッと座る，床座式の様式への傾斜となって現われているとのことであり，ヒヤリングにおける，古い人達・古い時代とは少しづつ変わってきているのだといった話がよく理解されるところである。

ii) 起居様式と畳の評価

起居様式についての実態をみると表10のとおりで，これは椅子座式が多い。自国で「家族の誰かが時々座る」というのは，「TVをみる時」「暖炉の前で」「大勢でパーティをする時」などに限られており，来日中も含めて，基本的には腰かけスタイルである。インドネシアが，日本滞在中は床座式となっているのは，戸頭団地は全室畳であり，椅子等を持ち込んでいないことによる。

つぎに，起居様式に深く関連する畳についての意見を求めると，『感触がよい』『堅くもなく柔らかくもなく丁度よい』という畳の床材としての長所を評価する反面，『メンテナンスが大変だろう』『虫などがつく』『畳にふとんでは，顔を畳につけて寝るようなもので，非衛生的である』『ソ連の気候では畳は寒すぎる』という欠点を指摘している。また前項の，靴を脱ぐことにはくつろぎや解放的な雰囲気を感じるのに対し，畳は『くつろげない』『個室はともかくリビングルームには不向きである』とっており，せいぜい『異国情緒としては面白いが，足が痛くて座れないのでリラックスできない』（ソビエト）。『料理屋などで上るにはよい。世界各国が西洋化している中で，他に見られない“和風”であるところがよい』『畳は好きである，和室の雰囲気がよい，物が置いてなくてきれいである』（スウェーデン）といった異国情緒としての評価である。

iii) 入浴形式について

単に清潔にするだけでなく，夕方のひと時，肩まで湯につかり一日の疲れを癒し，その湯は入れ替えずに他の人も使うといったわが国の入浴形式については，日本の習慣だからよいとは云っているが，各自の入浴においては，ほとんどが否定的である。忙しいのでシャワーで済ませているというのが大方の意見であるが，必ずしも忙しいからだけでなく，汗を流してさっぱりすることができればよいということのようであり，そのシャワーも朝出かける前とか1日2回あびるといった風気軽にこなしている。週に1～2回は湯をためてバスタブにつかっており，夜湯に入ると温まる，

表10 起居様式—国別

	a. 来日中				b. 自 国				
	票数	腰かける	時々 すわる	すわる	N.A.	家族全員 腰かける	誰かが時 々すわる	家族全員 すわる	N.A.
総 数	88	46	28	14		52	31	3	2
ア メ リ カ	15	10	5			6	8		1
カ ナ ダ	5	5				2	3		
西 欧	19	8	10	1		12	6	1	
スウェーデン	10	6	4			8	2		
ソビエト	10	10				10			
豪 州	11	4	7			2	8		1
インドネシア	11		1	10		9	2		
そ の 他	7	3	1	3		3	2	2	

疲れがとれるという回答もあったが、その湯については、各人毎に入れ替えており、複数の人が同じ湯につかるのは汚ないといっている。

前述の沢氏によれば、入浴の仕方については日本と欧米とでは大いに異なる住み方の1つではないかとのことであり、数人が同じ湯につかることは勿論、基本的には夜ねる前にゆっくり湯につかって疲れをとるという入り方ではなく、むしろ、今から出かけるからシャワーをあびるという風に、何かをするから、あるいは何かをする毎にあびるといった使い方であり、また、裸になることあるいは排泄行為も、家族の中ではとくに恥かしい行為ではなく、したがって、入浴や排泄が同じ空間にあることが問題でなくなるということである。今回の調査で、浴室・洗面所・便所等の水廻りについては、やや理解できかねたところである。

ま と め

以上の結果を要約すると、次のとおりである。

- 1) 屋外空間および住棟廻りについては、非常に評価が高い。とくにさくら団地の評価は、著しく高いが、今後考慮すべき点としては住棟の共用入口、玄関アプローチのデザイン処理があげられる。
- 2) 住戸内については、住戸規模の評価はやはり低く、各室空間では、とくにリッチにつくられたさくら団地のリビング・ダイニングルームは好評であるが、個室は不評であり、古い団地の浴室、洗面所等の水廻りおよび玄関廻りが不評である。収納スペースの不足も多く指摘された。
- 3) 間取りや室内仕上げについては、まずは好評であり、問題点として指摘されたのが、ドアの位置や付け方、水廻り部分の未分離についてである。
- 4) 照明については、蛍光灯の光の冷たさ、明るいだけが取り柄の均一な明るさが非常に不評であり、白熱灯による室内の雰囲気づくりを目指した照明デザインとして考慮すべく、今後のグレードアップが望まれる。
- 5) 住戸内の設備については、さくら団地における設備水準は高く評価しているが、それを良しとしているのではなく、むしろ設備過剰との指摘が強い。高度な各種装置は不必要なぜいたくさであり、一方基本的な設備の質は低いとみられており、それは、台所ユニットの材質や大きさ等の台所設備やセントラルヒーティング、古い団地における浴室設備等である。
- 6) わが国の伝統的な住様式のうち、住戸内での履床様式については高く評価され、諸外国でもこれを取り入れる傾向がうかがわれたが、起居様式や入浴様式については、習慣の違いとしており、歴史性や気候風土を背景としたわが国の特殊性があらためて確認された。

注

- 1) 浜 恵介 1984・「つくば・さくら団地の設計企画」『ベターリビング』No. 65, P. 66。
- 2) 構造躯体とは別に、床、壁、天井に二重の内装を施し、この間に配管、配線類を収める方式。
- 3) 量産建築に適用することを目的として作成された基準的な設計で、設計手間の軽減に効果をあげているが、

一方で個性，多様性に対して限界を持つものである。

4) 民間経営の賃貸用住宅を，住宅・都市整備公団が資金を提供し，建設供給する制度。